



観光を軸に地方創生・地域活性化を目指す「WEST NARA 広域観光推進協議会」 ～コロナ禍を広域連携で乗り切り、ポストコロナでの飛躍につなげる～

■WEST NARA 広域観光推進協議会の発足

奈良県観光の課題の1つとして、奈良市中心部への観光客の集中があげられる。県内他地域にも魅力的な観光資源は多くあるが、観光地としては十分認知されておらず、多くの地域では観光客数が伸び悩んでいる。そのような中、国が選定する「観光地域づくり法人（地域DMO）」の一つである斑鳩産業株式会社（代表取締役 井上雅仁氏）が橋渡し役となり、県北西部の6市町（大和郡山市、平群町、三郷町、斑鳩町、安堵町、王寺町）が連携、斑鳩町の中西和夫町長が会長となり、



協議会のエリア図

2021年4月、「WEST NARA 広域観光推進協議会」が発足した。広域連携を通じた周遊・滞在型観光の推進による地域活性化に期待がかかる。



協議会事務局（奈良斑鳩ツーリズム Waikaru 内）

■広域連携の目的とターゲット

今回連携した6市町は、世界文化遺産「法隆寺」を中心に「郡山城跡」や「信貴山」、日本遺産「龍田古道・亀の瀬」、「明神山」などの観光資源、寺社を巡るバギーツアーといったアクティビティなど「遊ぶ・学ぶ・作る・食べる」の魅力が豊富である。

一方で小規模な自治体が多く、個別の施策は予算面・人員面の制約から限界があった。今回の連携により、共同でのマーケティング、プロモーション、二次交通^{注1}の整備、旅行商品の企画・造成・販売などを推進することで、効果的・効率的な観光振興策を打ち出すことが可能となった。

このエリアは大阪府に近接しており、奈良市内を経由せず大阪府から直接観光客を呼び込むことができる。コロナ禍では近場の観光地を巡るマイクロツーリズムが注目されており、大阪府など京

阪神の住民にこのエリアをPRする意義は高まっている。同協議会では宿泊にこだわらず日帰り観光も推進しており、このエリアに来てもらい、エリアを知ってもらうことを目指している。

周遊観光では交通手段の確保が課題となるが、同協議会では一次交通^{注2}と二次交通の連携を意識し、エリア内の公共交通機関の1日フリー乗車券の利便性向上を事業者に働きかけるなど、民間主導のアイデアで地域をコーディネートしている。

注) 出発地から拠点となる鉄道駅などへの交通を一次交通、その鉄道駅などから観光地までの交通を二次交通という。

■地元企業との連携による地域経済循環の促進

地域を持続可能な観光地としていくためには、地元の幅広い業種の事業者が連携し、共存共栄を目指していくことが重要となる。魅力あふれる地域資源をうまく活用することで、その地域への経済波及効果が大きくなり、地域全体を豊かにする。

同協議会では6市町の優れた地域資源・生產品・加工品を「WEST NARA ブランド」として認定し、販売促進する事業を開始する予定だ。「ブランド認定においては出口戦略（販路開拓）が重要。広域連携により交渉の間口は広がっており、大手企業にもプロジェクトに参加してもらえる予定」と井上社長は語る。ここでも民間主導の強みが発揮されそうで、地域からの期待は大きい。

■今後のビジョン

2025年の大阪・関西万博は、同協議会のエリアにとって地域の魅力を国内外に発信する大きなチャンスとなる。行政の広域連携と民間の斬新なアイデアの融合が生み出す相乗効果は、ポストコロナにおいて地方創生・地域活性化を推進する上での原動力となるだろう。（秋山利隆）

■WEST NARA 広域観光推進協議会

【事務局】斑鳩産業株式会社

奈良斑鳩ツーリズム Waikaru 内

【電話番号】0745-75-8055

【E-mail】info@westnara.com